

平成28年度第2回三条市教育事務点検評価委員会会議録

1 開会宣言 平成28年8月22日（月） 午前9時30分

2 場 所 三条市役所栄庁舎2階201会議室

3 出席者 雲尾委員長、岡田委員、小林委員

4 説明のための出席者

長谷川教育長、駒形教育総務課長、栗林子育て支援課長、高橋小中一貫教育推進課長、吉川教育センター長、金子生涯学習課長、渋谷教育総務課長補佐、大谷教育総務課庶務係長

5 傍聴人 0人

6 会議次第

(1) 開会

(2) 教育長あいさつ

(3) 議事

ア 平成28年度教育に関する事務の点検及び評価報告書（案）について

(4) 閉会

7 会議の経過及び結果

(3) 議事

ア 平成28年度教育に関する事務の点検及び評価報告書（案）について

- ・小中一貫教育推進課所管分について、高橋小中一貫教育推進課長及び吉川教育センター長が説明

(雲尾委員長)

小中一貫教育推進課所管部分につきまして、御意見、御質問をお願いいたします。

1－(1)については、いかがでしょうか。

報告書の平成27年における総合評価で、「事務処理の効率向上を実感している」という肯定的評価を示す教職員が30%で、否定的評価を示す教職員17%とありますが、お伺いしたことは、回答選択肢です。効率向上を実感しているという説明に対して、どう答えた人が30%で、どういう選択肢を選んだ人が17%かということをお伺いしたかったんですけど、これはどういう設問だったんですか。

(高橋小中一貫教育推進課長)

具体的な回答の様式ですか。

(雲尾委員長)

これは、4件法と5件法が。要するにそういう選択肢に丸を付けるという回答ですか。

(高橋小中一貫教育推進課長)

はい。「実感している」「やや実感している」

(雲尾委員長)

「実感している」「やや実感している」の合計が30%で。

(高橋小中一貫教育推進課長)

はい。「実感していない」「やや実感していない」という部分が否定的評価です。

(雲尾委員長)

「やや実感していない」「あまり実感していない」ではなくて。

(高橋小中一貫教育推進課長)

すみません、ちょっと文言を正確にお答えできませんが、4件法の中の上位二つが肯定的評価、下位二つが否定的評価になります。

(雲尾委員長)

そういう意味で、その肯定的評価、否定的評価の後に括弧して「実感している」「やや実感している」の合計、否定的評価には「実感していない」「あまり実感していない」の合計を入れて欲しかったんですが、このままだと、実感しているかの肯定的評価、否定的評価だと分かりにくいので、ということだったんです。そういう変更でよろしいですかね。お願いしたいと思います。

(高橋小中一貫教育推進課長)

はい。

(小林委員)

4件法というのは、選択肢が4つあるということですね。上位2つと、下位2つを足すと、合計が100%になるんですか。

(雲尾委員長)

ですから5件法ですかね。

(高橋小中一貫教育推進課長)

そうですね。どちらともいえないというものが出てきておりますので、正式には5件法で、どちらともいえない部分については今回入っておりません。

(雲尾委員長)

過半数がどちらともいえないということですね。

(高橋小中一貫教育推進課長)

はい。

(雲尾委員長)

1の(1)の報告書の施策の基本方針のところ、**「教職員の多忙化解消と事務職員**

の事務の効率化」とありますが、これは「教職員の多忙化解消と事務の効率化」というふうにして、「事務職員の」という文言はそもそもいらぬのではないかと思いますが、どうでしょうか。

(高橋小中一貫教育推進課長)

教職員の中に事務職員も含めるという考え方で。

(雲尾委員長)

事務の効率化という、事務職員だけではなくて、教員の側も当然入ってくるのでということで「事務職員の」という文言をとってしまう方がいいかなと思います。ですから、これを見ると校務支援システム整備事業ですかね、②の主な構成事業の「校務支援システム整備事業」の中の「事務職員の」という項目をとっていただきたいということですね。

あと、報告書で「義務教育学校とは」の説明を入れていただいたんですが、「一人の校長の下、一つの教員組織で」という言葉を「一つの学校として」と。これは、どこから説明文をもってきたんですか。

(吉川教育センター長)

これは、文科省の説明会等の資料を基につくっています。確かに、市民の方にとっては「義務教育学校とは、義務教育の9年間を一貫して行う学校」だけでも分かるかなというふうに感じます。

(雲尾委員長)

そのほか、1－(1)の部分につきまして、いかがでしょうか。よろしいですか。

では、順番に1－(2)にそのまま進めさせていただきます。「開かれた学校づくり」について、いかがでしょうか。よろしいですかね。

続きまして1－(3)については、いかがでしょうか。

(岡田委員)

報告書の5ページのところで、基本方針、主な事務事業、そして、評価というふうにつなげて見ていくと、主な事務事業の①の小中一貫教育推進事業というのが、つながらないような感じがします。教職員の資質や指導力の向上ですけれども、小中一貫教育推進事業の中にそれが一言も書いてないので、そういうことは入れて、何をしたかっていう、どういう事業をしたかっていうのを、もう少し分かりやすくした方がよろしいのではないかと思います。

(雲尾委員長)

報告書5ページを見ると、要するに、これは子どもの姿を書いているだけなので、教職員の資質や指導力の向上にどうなっているか分からないということですね、事務事業

として、これはどうですかね。

(吉川教育センター長)

これは、本当に一般的なことしか書いてないので、例えば、教職員研修を行っているというような書き方に少し修正させていただきます。

(岡田委員)

そういう具体的な形がいいと思います。

(吉川教育センター長)

教職員研修や学校訪問等の事業を行ってきているという内容になるかと思いますが。

(雲尾委員長)

見え消し版の方で見ると分かるように、第1指標も第2指標も、構成事務事業に小中一貫教育推進事業が挙げられているだけなので、それをそのまま載せたということですね。そうすると、見え消し版の方は第1指標、第2指標があるので何をしているかは分かるけれども、報告書の方はこれだけが取り出されると分からないということですね。

(吉川教育センター長)

はい。ありがとうございます。

(雲尾委員長)

項目名の「教職員の資質や指導力の向上」というのは、変更できないんですか。

(駒形教育総務課長)

これは、三条市の教育基本方針の指標ですので。

(雲尾委員長)

変えられない。

(駒形教育総務課長)

そうですね。変えない方向で、今、考えています。

(雲尾委員長)

分かりました。文章の中では全部「教職員の資質・指導力の向上」とあるように、全部、点にしているんですね。一般的には「や」という言葉自体が日本語で、英語でいうと「and」なのか「or」なのか分からない言葉なので、「や」という言葉は、なるべく使わない方がいいんですね。変更しがたいということでは仕方がないと思いますけど、今後は考えていただければと思います。今回の場合は、それはそのままいくということで。

(3)は、事務事業のところを、教職員の資質、指導力の向上が具体的に分かるように書き込んでいただくということをお願いしたいと思います。

そのほか、(3)はよろしいですかね。

では、(4)については、いかがでしょうか。

(岡田委員)

細かいところですが、評価シートの8ページの主な構成事務事業の名称が「学力向上推進事業費」となっていますが、「費」はいらないと思うのですが。

(雲尾委員長)

見え消し版8ページの事業費の、「費」をとるんですね。

(岡田委員)

事業なので、「費」はいらないと思います。

あと、報告書の8ページの主な事務事業のところ、①学力向上推進事務のところ、「児童の」と書いてありますが、「生徒」も入るんじゃないでしょうか。中学校の方も出ているので。

(吉川教育センター長)

はい。「児童生徒の」に修正します。ありがとうございます。

(雲尾委員長)

この推進事業の説明ですけど、「児童の充実した学校生活の具現と将来の豊かな生活や、よりよい社会の実現に向けて学力の向上を目指す」というのは、どうも説明が一段すっ飛ばしているような気がします。つまり、この場合では、逆に読めば学力が向上すると、将来の豊かな生活やよりよい社会が実現すると断言してしまっているのかなということが引っかかります。

「児童の充実した学校生活の具現のために学力の向上を目指す。」は、まだ、それなりにストレートにつながると思います。その後、「将来の豊かな生活や、よりよい社会の実現に向けて」までつなげると、読んでいてかなり気になります。

(吉川教育センター長)

予算書の文言をそのまま持ってきたものですから、確かに委員長おっしゃられるとおり、あまりにもその学力向上が本当に子どもたちの豊かな生活やよりよい社会の実現に、というところよりは、やっぱり子どもたちの将来に向けての夢、希望をかなえるために、というような形の意味合いですけれども。

(雲尾委員長)

そうですね。その夢や希望をかなえて、より豊かな生活、よりよい社会の実現に関わるようなということが、本当は一段入ると思います。

(吉川教育センター長)

そこら辺を少しもう一度見直して、豊かな生活やよりよい社会の実現というところは少しカットして、子どもたちの夢や希望の実現に向けてという表記にさせていただこう

かと思えます。

(雲尾委員長)

では、1－(4)はよろしいですかね。

では、次、1－(5)については、いかがでしょうか。

(岡田委員)

これがC評価になっているんですね。それで、こちら辺はやっぱり注目のことだと思いますが、どうして、その全国平均プラス3ポイントに達していない辺りの見通しというか、どういうふうに捉えているのかというところ辺りが少し弱いような気がします。やっぱりC評価というのは注目するので、こういうところが十分というような、反省文みたいなのは、「達していない」という形だと少し弱いと思いますが、どうでしょうか。

(高橋小中一貫教育推進課長)

このポイントの刻みが、実は非常に難しいところがございます。何とか目標を30年度に向けてポイントを上げていきたいという、プラス3ポイントの設定です。全て全国平均を上回っていることは間違いないところでありまして、年々ポイントが向上してきているところもありますので、30年度に目掛けるというところのプラス3ポイントですので、プラス3ポイントに設定しますと、今のところはC評価しか付かないという、非常に切ない部分があります。ただ、段階的にそのポイントを設定するのも難しいと思っているところです。ただ、全国平均を超えているということについて、また、平均値が上がってきていることについては、評価、成果は出ているとは思いますが、目標値は、ちょっと私たちもなかなか逡巡するところではあります。

(岡田委員)

でも、これは、数字だけ見るとそうなるという形でしょうか。

(雲尾委員長)

その文章ですと、全国平均を上回る状況を維持しているが、目標には届いてないのでCだということで、やることは今までと同じことになるのかというので、それで到達するんですかというのは、読まれたら心配にはなるでしょうね。

(岡田委員)

Cになっているところが注目されるのではないかと思って。何かこういう点が弱いのか等の分析をしているところがあれば聞きたかったんですけども。そこは特にないのでしょうか。

(雲尾委員長)

元々プラス3に設定した時点での目算とか、なぜプラス3にしたかとか、そういったようなことはあるんですか。

(高橋小中一貫教育推進課長)

当時の伸び率からすると、目標年度までは3ポイントいけるだろうと。いい形で伸びてきているのではないかとこのころがあったので、そういった設定の仕方です。正直なところ、なぜ3ポイントなのかという具体的な部分については、明確な理由がなく、大体伸び率からして目標年度には達することができるのではないかとこのころです。

(雲尾委員長)

全国平均にはほぼ達している状況だから、目標値にはできないということですね。高く設定するときに達成できそうなぎりぎり高いところということですね。

報告書の hyper-QU の説明ですけど、「児童生徒の意欲や満足感及び学級集団の状態を」とありますが、「児童生徒に対する質問紙によって」ですね、ここに「児童生徒に対する質問紙」という文言が入るんじゃないかということで、「質問紙によって測定」まではいいんですけど、「測定するもの」というふうになると、することだけになっちゃうので、「測定し、何とかにより、何とかを明らかにする調査とか検査とか」、そういったようなことじゃないかと思います。

(高橋小中一貫教育推進課長)

御指摘のとおりだと思いますし、いわゆるソーシャルスキルの測定の部分が飛ばされているので、その部分も含めて少し表現を考えていきたいと思います。

(雲尾委員長)

hyper-QU 自体の説明を確認して進めていただきたいと思います。

1 - (6) につきましては、いかがでしょうか。

主な事務事業の「子どもがつくる弁当の日」ですが、説明文に子どもがつくる弁当の日と名称が付いているので、なくてもいいような気もしますが、目的語がないので、「小学校6年生と中学校1、3年生が、自分の弁当を」という文言が入った方がいいと思います。何をつくるかが、一応、文章読むだけでは分からないので。

(高橋小中一貫教育推進課長)

はい。

(雲尾委員長)

そして、体力テストの説明があるんですけど、確かに新潟県教育委員会の統計調査項目ではあるんですけど、それと文章の全国という言葉が、多分、読まれている方は、よく分からないと思います。最終的には全国の調査なんだけど、法制度上は県教育委員会の統計調査項目だって、それは確かにどっちも正しいことが書いてあるんだけど、そのところ、注7はあまり正確に書かない方が誤解を招かないと思います。新潟県教育委員会の統計調査項目に設定するときに、国のものを設定しているわけですから、そうい

う意味では、注の中の新潟県教育委員会の統計調査項目であるという文言を変更してもいいのではないかと思います。

1－(6)はほかによろしいでしょうか。

では、2－(1)については、いかがでしょうか。

先ほど、今後の方針のところ、報告書の最後の2行は削るとおっしゃったんですけども、見え消し版の方は削らないんですか。見え消し版10ページの、一番下ですね。
(高橋小中一貫教育推進課長)

「課題がある」というところからカットさせていただいたところですね。見え消し版の13ページの部分も当然カットさせていただきます。

(雲尾委員長)

報告書だけじゃなくて、両方カットでいいですね。

(駒形教育総務課長)

はい、両方合わせてカットさせていただきます。

(雲尾委員長)

分かりました。「国の方向性」は、こっちも入れるということですね。

(駒形教育総務課長)

はい。そうです。誰が示したか分かるようにしました。

(雲尾委員長)

「小学校中学年外国語活動導入、高学年教科化」というのは、これは高学年外国語の教科化。「授業時数増」は何の授業時数といったのは、いいですかね、入れなくて。

(駒形教育総務課長)

全部、英語の関係ですか。

(高橋小中一貫教育推進課長)

この部分の文言においてはそうです。

(雲尾委員長)

中学年で外国語活動が導入され、高学年で外国語の教科化と授業時数の増ですかね。

(岡田委員)

授業時数の増というのは高学年だけですね。

(高橋小中一貫教育推進課長)

いや、これは全部ですね。

(吉川教育センター長)

教科化から、それに伴う授業時数の増加という意味です。

(雲尾委員長)

教科化だから「小学校中学年外国語活動導入と、高学年での外国語の教科化及びそれに伴う授業時数の増加」ということですか。

(高橋小中一貫教育推進課長)

はい。

(小林委員)

報告書(案)の9ページに、ALTの説明を入れられた方がいいと思います。前述のNRTとか、結構そのアルファベットのものに関しては、ほかのところも説明が入っていますので。

(雲尾委員長)

9ページの、主な事務事業②の下ぐらいにALTの説明文を入れると。

(雲尾委員長)

2-(1)はよろしいですか。岡田委員の見え消し版の14ページのコメントは、これで解決されているということでしょうか。

(岡田委員)

多分、ここら辺は長い文章で難しいんですが、解決されているような感じです。ALT担当教員が評価するんですね。何を評価するかというとALTの授業での指導力と勤務状態に対することを評価して、その肯定的評価の割合が90%と。どういうふうなのが一番分かりやすいのかなとは思いますが、これでいいのかなとは思いますが、分かりませんか。

(雲尾委員長)

これは、2つに分けた方がいいという趣旨ですか。説明文は、一つの四角、括弧でくくっているわけですね。岡田委員のコメントでは、「又は」という形で2つに分けていますけど。

(岡田委員)

長くなっていくと、何と何を評価しているのかというのが、ちょっと前のところで分からなかったのです。

(雲尾委員長)

本来、2つの設問ですか。

(高橋小中一貫教育推進課長)

そうです。内容的には、勤務様態と指導力です。

(雲尾委員長)

それを合わせて、例えば、89%と91%だったら、90%という考え方でいいですか。

(高橋小中一貫教育推進課長)

はい。

(雲尾委員長)

合算平均で90%であるということで、その指標説明文になっているわけですが、岡田委員のおっしゃるように、それぞれ一個ずつ書いた方がいいかどうかというのがありますかね。

(岡田委員)

「又は」ではなくて、「それと」ということですね。私が勘違いしていました。

(雲尾委員長)

正確に言うと、「及び」ということになりますね。ただ、どちらも90%以上というよりは、両方の平均でもいいようなので、極端な話をいえば100%と80%でもいいということですよ、そうなる。

(岡田委員)

そういうことですね。

(高橋小中一貫教育推進課長)

結果的にそういうことになりました。

(雲尾委員長)

では、2-(2)については、いかがでしょうか。

(岡田委員)

報告書の10ページの主な事務事業に小中一貫教育推進事業ということで一般的なことしか書いてないので、ここにまた具体的なことを、何をしたかというような、何をするのかというようなことが入るといいかと思います。

(雲尾委員長)

これは、見え消し版でいえば、キャリア教育事業のところを使っているものですね。

(岡田委員)

そうですね。キャリア教育事業と小中一貫教育推進事業というのが、二つ事業があるんですけど、その2つ目が。

(雲尾委員長)

肯定的評価のところに使っているものをもってきたので、三条市への愛着の高まりに対する肯定的評価の割合に関連する構成事務事業としているということですね。

(岡田委員)

はい。そこで、小中一貫教育推進事業として何をするのか、何をしたのかというところが、分からないと思います。

(吉川教育センター長)

ここもやはり、どっちかと一般的なことしか、具体的にはキャリア教育事業の方がメインで行っておりますので、小中一貫教育推進事業の中のこういう事業が市民性を高める教育の推進に役立っているかというのを記載しづらいところもあるんですけども、そのような分かりやすい表現に少し変更させていただきたいと思います。

(岡田委員)

何もしてないわけではないですよ。

(吉川教育センター長)

ないです。

(岡田委員)

何をされているんでしょうか。

(雲尾委員長)

具体的に書いていただきたいか、あるいは、報告書では、ここだけ4つも主な事務事業が並びますので、例えば②はなくして、事務事業を3つだけにするという方法もあるとは思いますが。

(吉川教育センター長)

②はなくてもいいかもしれないですね。これは、指標に関してアンケート結果が入っていたものですから、やはり小中一貫教育推進理由を入れていたので。そのアンケートを行ったという事業が関係しているだけなので、内容的にはカットさせていただいた方がスムーズに読んでいただけたと思います。

(岡田委員)

このアンケートというのが、小中一貫教育に関わる点検評価アンケートというところにあって、愛着があるかないかということが小中一貫と関係があるわけですね。

(雲尾委員長)

小中一貫教育の中で行っているアンケートを用いているということですね。

(岡田委員)

用いているから入ってくるという。直接的なことではないですね。

(吉川教育センター長)

ないです。じゃあ、②はカットさせていただくということでしょうか。

(岡田委員)

はい。もう一つお願いします。基本方針の中に「科学教育推進事業」というのが11ページの④のところに事業として出てくるんですが、施策の基本方針の中に科学的というようなのでは一切出てこないんですけど。そこら辺は、これだけ細かく一つ一つ基本方針のところに挙げてあるので、それも基本方針の中に一つ入れた方がいいのではない

かと思えます。

(吉川教育センター長)

確かに、刃物・ものづくり教育という、ものづくりのすばらしさを、防災等が入っておりますけれども、科学教育に対する文言が入っておりませんので、そこも修正させていただきたいと思えます。

(雲尾委員長)

あと、お伺いしたいのは、今後の方針のところ「より」という文言は特に読みにくいので、「参加する子どもの実体により合致するように工夫し」という形にして、「参加する子どもの実態により合致するように」ではなくて。「より」の位置を変えるか、あるいは「より」という言葉を「一層」という言葉に置きかえるかした方が読みやすいかなど。

(吉川教育センター長)

「実体に一層合致するように工夫し」というふうに修正させていただきたいと思えます。

(雲尾委員長)

そのほか、2－(2)はいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

では、2－(3)については、いかがでしょうか。

(小林委員)

見え消し修正版19ページの第2指標の指標に対する評価の説明の1行目ですけれども、後半の方で「通級指導教室の意義が手続に関する」という、「が」というのは、何かちょっと違和感が。

(高橋小中一貫教育推進課長)

そうですね。誤植がありました。申し訳ありません。

(雲尾委員長)

研修会の名称というか、内容はどのようなものでしたかね。

(高橋小中一貫教育推進課長)

これは、通級指導教室の意義及び手続に関する研修会という形になります。これは誤植でございます。申し訳ありません。

(雲尾委員長)

「が」を「及び」に変えるんですね。その後半のところに、「3回実施した。ことにより」になっています。これは「実施した」の後の丸はとっていい。指標に対する評価の下から2行目ですね。「3回実施した。」その丸をとるといいですかね。

(高橋小中一貫教育推進課長)

そうですね。申し訳ありません。

(岡田委員)

障害者の「害」が、平仮名と漢字がありますが、これは、使い分けているということでしょうか。

(駒形教育総務課長)

三条市では障害の「害」の字は、平仮名を使うことを原則にしております。ただし、法律名などの固有名詞は変えることはできませんので漢字を使っているということで、使い分けさせていただいています。

(岡田委員)

三条市独自ということですか。

(駒形教育総務課長)

各市町村にもかなり広がってきています。

(岡田委員)

文科省の通知ですか。

(駒形教育総務課長)

文科省の通知や指導というよりは、三条市独自の考えの中で、漢字にすると抵抗がございますので、平仮名にということで、数年前からそうしています。固有名詞だけは変えられませんので。

(雲尾委員長)

ほか、よろしいですかね。

では、2-(4)については、いかがでしょうか。よろしいですかね。

—休憩—

(雲尾委員長)

では、再開いたします。

3の説明に入ります前に、お願いします。

(駒形教育総務課長)

先ほどの hyper-QU の C 評価の件でございますが、見え消しの評価シートですと 10 ページになります。それから、報告書では 7 ページになります。

先ほど目標値の 3 ポイントに届かなかったことから C 評価にさせていただきましたが、評価シートを見ますと、確かに 3 ポイントのところ、配慮のスキルは 2.4 ポイント、達成率は 80%、それから関わりの方も 2.3 ポイントで達成率 76.7% ということで 80% 近くございます。ましてや全国平均を上回っているということもございますので、もし、よろしければここは B 評価とさせていただいて、7 ページの 27 年度における評価 C とい

うところも、その成果指標についてはその目標としている年度の3ポイントには達しなかったものの、全国平均を上回っている状況を維持していることからB評価としたという表現にさせていただいて、B評価にさせていただければと思っておりますが、いかがでございましょうか。

(吉川教育センター長)

最初は4つぐらい指標があって、それが低かった。

(高橋小中一貫教育推進課長)

小学校6年生の指標が入っていたので、その評価が低かった。中学1年生だけですと80%に近いというのがあるので。小学生が2.3ぐらいです。

(岡田委員)

上回っているけれども、やっぱり低い。

(高橋小中一貫教育推進課長)

第4指標までであったときは大分低かった。小学校6年生のものが入りますと関わりが2.2ポイントで73.3%。関わりのスキルについて、同じですね。小学校6年生、両方とも2.2ポイントで73.3%ですね。これがあったのでというふうなことで。

(小林委員)

ちょっとニュアンスが違うのかも分からないんですけど、評価報告書の7ページの今のところですね、主な事務業務、いじめ、不登校対策事業に対する評価ということでしょうかね。そうしますと、何か児童生徒数の数に対する不登校、あるいは不登校気味になっている子どもの数というのは上昇しているというふうに聞いたことがあります。数値だけの評価というのはどうなのかなというのは、ちょっとすみません、視点が違うのか分からないんですけども。

(高橋小中一貫教育推進課長)

いじめ不登校対策の中で、いじめにつきましては文部科学省からも積極的にいじめを認知していくということで、疑わしいのは、もう本当にいじめとして積極的に捉えてという対応をさせていただいておりますので、いじめについての件数は増加もやむなしという覚悟でやらせていただいております。

不登校につきましては、これもまた個々のお子さんの様態によって本当に非常に様々な原因、要因を背景に、非常に苦しんでいるお子さんがおられ、それぞれ個々の、個別の問題でやらせていただいているものでありますので、hyper-QUの指標と同一視しながら見取することは非常に難しい部分があります。

hyper-QUにつきましては、全体的なマクロの統計的な部分ということで指標を出させていただいておりますので、個々のお子さんの様態については、ここには入ってきていな

い部分が非常に強くあります。その辺、御理解をいただきたいと思っています。

ただ、不登校のお子さんの中でも、確かにここ2年間不登校傾向を示すお子さんの数値が少し上昇傾向になってきているのですが、年間30日以上欠席している不登校のお子さんの中でも、全欠のお子さんはほとんどおりません。年間30日というのは、1週間に1日休むともう年間35日休むこととなります。いろんな形でお休みをとるお子さんが多いんですけども、登校率、学校に出席する率そのものについては、これは高まっているところがありますので、いろんなものを抱えながらも一生懸命学校に登校するお子さんは多くなってきていると私は考えているところであります。

できましたら、ここはhyper-QUの数値に特化した形での指標で出さしていただけにかなと思います。また、今のこの内容と、それからそのCにするか、Bにするかについては、別問題として御意見をいただければありがたいと思っております。

(雲尾委員長)

ということでして、いじめ・不登校対策事業と書いてありますが、いじめ・不登校の数値自体は指標に入れてないので、それはこの報告書に出てこないというようなことですね。あとは評価の部分をどうするかということですが。

(小林委員)

前回の会議でも、確か70%以上であればBにした方がいいという話がありましたよね。

(雲尾委員長)

ええ。だから、80%でBにしていいのかどうかという話です。

(小林委員)

Aに近いんじゃないかと。前日も80%か70%は、Aにしたというのはありましたよね。

(雲尾委員長)

いや、目標値に対してじゃないですかね。

(駒形教育総務課長)

目標値にはまだ届いていませんので。やっぱり目標値を超えればAでしょうけども、目標値でBですので。それよりも達してないのでCなんだけども、やっぱりその目標値への達成率が70から80もあればいいのかなという思いだったんですけども。

(雲尾委員長)

どうですかね。Cのままでいいか。

(岡田委員)

中学だけでしたら80%ありますので。

(雲尾委員長)

80と76.7なので、これは80というかどうか。

(岡田委員)

6年生のも、少し低いとなるとあれなんですかね。

(雲尾委員長)

そうですね。これは、例えば小学生だけに絞っていたらそうなったかどうかという問題がありますのでね。

(岡田委員)

すみません、ちょっと分かりません。

(小林委員)

中学校1年生だけにした根拠というのが先ほど説明でありましたが、すみません、私ちょっと聞き逃してしまったので。

(雲尾委員長)

類似の状況、似たような項目がずっと並んでいるだけで4ページとる必要はないということ、こちらに特化したというだけの話ですよ。それで、小学校6年生と中学1年生で、どっちをとったかというだけの話ですよ。こちらをとった理由というのは何か積極的にあるんでしょうか。

(高橋小中一貫教育推進課長)

中1ギャップ等々の問題を考えますと、6年生から中学1年生に上がり、どれぐらい社会性が伸びているのかというところを考えたとき、中1の方がより中1ギャップという部分については回答が見えるのではないかとということから中1にさせていただきました。

(岡田委員)

そうすると、6年生ではちょっと低かったけれども、中学に上がった段階で上がっているという実体があるということを示せばいいのかなと思うんですけども。もし、Bということにするとすれば。今まで、中学校へ上がったときに何か適応できないとか、そういう子たちが多い傾向にもかかわらず、6年生のときの数値よりも少し上がっているので適応したとかいうのも、数字だけの問題かもしれないですよ。そういう形で考えると、Bにしてもいいかなとは思いますが。

(高橋小中一貫教育推進課長)

その学年が中学1年生になったときに、どれぐらいの数値になっているのかという部分について、もし、見取るということになりますと、経年で見ていかなければいけなくなってしまう。単年度、中学1年生だけでそれを見取ることが難しいので、この指標では難しいという感じになってしまいます。

(小林委員)

判断基準がよく分からないんですけども、ほかの評価の物差しと照らし合わせて、こもその物差しを持ってきてBという評価で整合性といいますか、合理的なその判断でBという判断が付くのであれば、いいような気がします。

(雲尾委員長)

目標達成率の8割程度でBにできるかとなると、かなり厳しいかなと思います。

(小林委員)

確かに7ページといいますか、ほかのところでも100%以上達成しているところもBになっていたりしますのでね。私は委員長に一任します。

(岡田委員)

私もこういうのはよく分からないので。

(雲尾委員長)

数値から見るとBにする積極的理由がないという感じですので、このままCでいいかと思います。

(駒形教育総務課長)

はい、承知しました。

- ・生涯学習課所管分について、金子生涯学習課が説明

(雲尾委員長)

3-(1)につきましては、いかがでしょうか。

スマートウェルネス三条の、見え消しの22ページの、歩きたくなるまちが加わったということですね。報告書の14ページには、スマートウェルネス自体の説明があがっているということになります。

報告書の14ページの注の9ですかね、「市民の安心安全で豊かな生活を推進するものである」とありますが、これは何ですか。方針とか、施策とか、運動とかいったら、どういった表現になりますか。報告書14ページの注の9の説明文ですね。「もの」とまとめられてしまうと。

(駒形教育総務課長)

これは、ひとつの施策的なものです。

(雲尾委員長)

施策ですかね。

(駒形教育総務課長)

はい。こういう考え方に基づいていろんな事業を進めています。

(雲尾委員長)

ただ、「ものである」といわれると、説明としてはまだ不十分かなと思います。「市

民の安心安全で豊かな生活を推進しようとする行政施策」ということですかね。で、見え消し版では、「スマートウェルネス三条の視点（歩きたくまち）」という言葉が入っただけですが、岡田委員はこれで分かりやすいでしょうか。

(岡田委員)

この前も説明していただいて。スマートウェルネスですよ。

(雲尾委員長)

これは、歩きたくなるまちを指すということによろしいですかね。

(岡田委員)

はい。

(雲尾委員長)

続きまして3－(2)につきましては、いかがでしょうか。よろしいですか。

では、3－(3)については、よろしいですかね。

飛びまして、6－(1)については、よろしいですか。

では、6－(2)については、いかがでしょうか。

報告書24ページで、「破壊される」で、「破壊される」を全部「に係る」に変えるというお話がございました。見え消し版も同じように対応するということですね。そうすると、その施策の基本方針にある「破壊される」はどうしますか。報告書は23ページ、見え消し版は38ページに、施策の基本方針のところにある「破壊される」はこのまま残すことになりますか。

(金子生涯学習課長)

ここも同じように「に係る」に修正させていただきます。

(雲尾委員長)

「開発行為に係る埋蔵文化財の発掘調査」に直すということですかね。そのほか、よろしいですか。

では、6－(3)については、いかがでしょうか。

(岡田委員)

報告書の主な事務事業の③三条かぐら鑑賞会・栄神楽鑑賞会と書いてありますが、評価の方にはそれが触れていません。あとは細かく、すごく具体的に触れているので、評価のところに触れた方がいいのではないのでしょうか。

(雲尾委員長)

これは、触れるような内容はありますか。鑑賞会の開催ということで決算見込額11,000円が記載されているものですが。

(金子生涯学習課長)

三条かぐらの鑑賞会と栄神楽の鑑賞会の入場者数を足していけば、この中には入るかと思しますので修正させていただいて、追加させていただきたいと思います。

(雲尾委員長)

これは、要するに第一指標の中に入っている、構成事務事業の①、②をそのまま書いたということですね。三条かぐら・栄神楽については、指標の中の数字が挙がっていないので、書けなかったということで、追記で書いていただくというお話ですので、それでいいですかね。

(岡田委員)

はい。

(金子生涯学習課長)

はい、そのようにしたいと思います。

(雲尾委員長)

その見え消し版の41ページですね、指標に対する評価ということで書き加えていただきましたが、例示として前年度比とか、前年度の数字そのまま出すとか、一個だけ前年度比になるよりは、「文化遺産公開活用事業参加者 10,062人」、平成26年度比102%になったというよりも、ここも実際の数値の方がいいかと思しますので、数値でお願いします。

(金子生涯学習課長)

分かりました。ここも合わせて数値で表記します。

(雲尾委員長)

そのほかはよろしいでしょうか。

- ・子育て支援課所管分について、栗林子育て支援課長が説明

(雲尾委員長)

では、4-(1)「幼児教育内容の充実」については、いかがでしょうか。

(岡田委員)

施策の基本方針が書いてありますが、これが全部該当するかというと、そうでもなさそうですけども。これ、三条市の重点項目を1番から5番まで全部挙げられたんですが、そうではなくて、必要なところを挙げるというわけにはいかないんでしょうか。そうすると、かなり分かりやすくなるかと思えます。運動遊びとか、個別の発達支援計画とかいう、その発達応援とか、事業としては保育者対象講演会とかいうのだって、幼稚園と保育園の連携とか、信頼される幼稚園、保育所、園づくりとかいうのは直接的にはあまり関係ないかなと、これはしないというわけじゃなくて、ここの充実の27年度はこれをしたということなので、その中からピックアップするということかと思ったんですけど。

全部挙げなければいけないのかなと思って。

(栗林子育て支援課長)

確かに御指摘の部分、そのとおりだと思います。ただ、私ども、幼児教育推進プランということの中で掲げさせていただいておりますので、全体でこういう方針があって、その中で特にということで挙げさせていただいておりますので、できればこのままにさせていただけたらと思うんですが、申し訳ありませんが、よろしく願いいたします。

(岡田委員)

報告書の17ページの今後の方針がかなり長いと思います。力が入っているということも分かりますが、17ページの下から4行目の「また」というところ辺りは、どこにつながるのかなというふうに思って、身体を動かすということで、運動遊びの推進につながっていくわけですね。そうすると、ここじゃなくて、その方針の3行目の「運動遊びの推進については」というところにつなげるとうまくつながるのかなと思います。推進していくということと、そして、その家庭ともうまく連携していくというのを簡単に述べた方が、すんなりと分かりやすいと思います。

(栗林子育て支援課長)

まさにおっしゃるとおりでして、御指摘をいただいたところ、後で追加したような記載をさせていただきましたが、確かにおっしゃるようにこの上から2段落目のところに溶け込ませるような形で、再度修正させていただきたいと思います。

(雲尾委員長)

ほかはよろしいですか。4－(1) いいですね。分かりました。

では、続きまして4－(2) については、いかがでしょうか。

施策の基本方針のところですが、「全ての子どもたちが不安なく意欲をもって小学校に入学するために」という文言よりも、これは行政側のことなので、「入学できるよう」という表現の方がいいのではないかなということ、いずれも直していただきたいと思っています。そのほかよろしいですか。

では、4－(3) については、いかがでしょうか。よろしいですか。

・教育総務課所管分について、駒形教育総務課長が説明

(雲尾委員長)

5－(1) については、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

(4) 閉会宣言 午前11時45分